



## 2025年6月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年2月14日

上場会社名 株式会社グリッド 上場取引所 東  
 コード番号 5582 URL <https://gridpredict.jp/>  
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 曾我部 完  
 問合せ先責任者（役職名） 執行役員CFO（氏名） 小林 剛（TEL） 03(5468)8800  
 半期報告書提出予定日 2025年2月14日 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 有（ 機関投資家及びアナリスト向け ）

（百万円未満切捨て）

## 1. 2025年6月期第2四半期（中間期）の業績（2024年7月1日～2024年12月31日）

## （1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年6月期中間期	890	39.5	62	—	63	—	38	—
2024年6月期中間期	638	—	3	—	△17	—	△14	—

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年6月期中間期	8.25	7.42
2024年6月期中間期	△3.16	—

（注）1. 2024年6月期中間期の数値の対前年中間期増減率については、2023年6月期中間期において中間財務諸表を作成していないため、記載しておりません。

2. 2024年6月期中間期の潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり中間純損失であるため記載しておりません。

## （2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年6月期中間期	4,029	3,678	91.3
2024年6月期	4,101	3,638	88.7

（参考）自己資本 2025年6月期中間期 3,677百万円 2024年6月期 3,636百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年6月期	—	0.00			
2025年6月期（予想）			—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2025年6月期の業績予想（2024年7月1日～2025年6月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,200	33.2	400	9.4	410	19.2	270	△33.1	56.75

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2025年6月期中間期	4,734,669株	2024年6月期	4,720,947株
2025年6月期中間期	128株	2024年6月期	41株
2025年6月期中間期	4,726,508株	2024年6月期中間期	4,620,418株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（中間期）

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についての注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当中間期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法）

当社は、2025年2月18日(火)に機関投資家及びアナリスト向けに説明会(ウェブ)を開催する予定です。なお、当日使用する決算説明資料は、当社ウェブサイトに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当中間期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 中間財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 中間貸借対照表 .....	4
(2) 中間損益計算書 .....	5
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書 .....	6
(4) 中間財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(セグメント情報等) .....	7

## 1. 当中間期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当中間会計期間におけるわが国の経済は、物価高の影響から一部に弱い動きがみられたものの、雇用・所得環境の改善により緩やかに回復してきました。一方で、各国の金利の変化による為替相場の変動やエネルギー価格を取り巻く環境の混迷からエネルギー価格は高止まり、先行きの不透明な状況が続きました。

エネルギー価格の変動の影響を大きく受ける電力に関しては、EVの普及やIT機器の利活用等により今後も旺盛な需要が続くと見込まれ、一層の安定的かつ経済的な供給体制が求められております。昨今は生成AIの需要の高まりに伴い、大規模な電力消費を伴うデータセンターの設置や増強が加速しております。また、大量のデータを必要とする社会全体のデジタル化に伴い、製造に膨大な電力を必要とする半導体の需要も急速に増加しております。電力広域的運営推進機関によると、データセンターや半導体工場の新增設に伴う需要電力量は2034年度までに514億kWh増加し、電力需要全体でも増加の見通しとなっております(出典：全国及び供給区域ごとの需要想定(2025年度)、2025年1月22日公表)。

このような状況下、当社は電力会社に対して、AI技術や数値最適化技術を用いた電力需給計画の最適化を提供し、電力会社のエネルギー消費量の削減を実現してまいりました。また、配船計画、生産計画、空調熱源制御等の最適化も提供しており、AIエンジン開発、システム開発、運用・サポートまで一貫したサービスとして展開してまいりました。これまでの計画業務は、オペレーションを熟知した熟練人材による多大な労力により成立しておりましたが、AI技術や数値最適手法を用いた当社の計画最適化サービスは、複雑かつ不確実性の高いビジネス環境下でも短時間で最適な計画を提供し、属人性を排することを可能としており、当社の事業に対する期待は一層高まっております。

当中間会計期間は、引き続き電力・エネルギー、物流・サプライチェーン、都市交通・スマートシティの3分野に注力いたしましたが、予算規模が大きい電力会社からの追加受注や本番導入開発が進展し、電力・エネルギー分野の売上が全体の5割超を占めることとなりました。物流・サプライチェーン分野についても、配船計画における本番導入開発の進展により全体の3割超を占める売上となりました。また、都市交通・スマートシティについても、鉄道会社の修繕計画におけるAIエンジン開発が進展し、堅調に推移しました。

当社は、AIエンジン及びシステム開発をフロー型売上、運用・サポートをストック型売上として定義しておりますが、当中間会計期間の電力・エネルギー分野の合計売上高は480百万円(前年同期比82.6%増)、うちフロー型売上は398百万円(前年同期比91.8%増)でストック型売上は81百万円(前年同期比47.9%増)、物流・サプライチェーン分野の合計売上高は305百万円(前年同期比8.9%増)、うちフロー型売上は173百万円(前年同期比0.2%増)でストック型売上は131百万円(前年同期比23.0%増)、都市交通・スマートシティ分野の合計売上高は95百万円(前年同期比13.4%増)、うちフロー型売上は61百万円(前年同期比4.0%減)でストック型売上は33百万円(前年同期比69.0%増)、社会インフラ3分野に分類されないその他の合計売上高は9百万円(前年同期比13.9%減)となりました。

また、当社は開発体制の強化に向けて優秀なエンジニアの採用を行うことで今後の事業拡大に向けた取り組みを進めており、当中間会計期間末におけるエンジニアは74名(前年同期比13.8%増)となりました。加えて、営業体制の強化も進めており、営業・管理部門は29名(前年同期比26.1%増)となりました。このことから、製造費用におけるエンジニアの人件費は379百万円(前年同期比23.9%増)、販管費における営業・管理部門の人件費は201百万円(前年同期比19.9%増)となりました。

以上より、当中間会計期間について、売上高は890百万円(前年同期比39.5%増)となり、営業利益62百万円(前年同期は営業利益3百万円)、経常利益63百万円(前年同期は経常損失17百万円)、中間純利益38百万円(前年同期は中間純損失14百万円)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ①資産、負債および純資産の状況

#### (資産)

当中間会計期間末の総資産は4,029百万円となり、前事業年度末と比較して71百万円減少いたしました。流動資産は3,704百万円となり、前事業年度末と比較して42百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が165百万円増加した一方で、売掛金及び契約資産が226百万円減少したことによるものであります。固定資産は325百万円となり、前事業年度末と比較して29百万円減少いたしました。これは主に投資その他の資産に含まれる繰延税金資産が23百万円減少したことによるものであります。

#### (負債)

当中間会計期間末の負債は350百万円となり、前事業年度末と比較して112百万円減少いたしました。これは主に長期借入金が32百万円、その他に含まれる契約負債が56百万円、預り金が12百万円それぞれ減少したことによるものであります。

#### (純資産)

当中間会計期間末の純資産は3,678百万円となり、前事業年度末と比較して40百万円増加いたしました。これは主に中間純利益の計上により利益剰余金が38百万円増加したことによるものであります。

### ②キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は3,065百万円となり、前事業年度末と比較して165百万円増加いたしました。

当中間会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は216百万円(前年同期は39百万円の資金の使用)となりました。主な収入要因は、税引前中間純利益63百万円、売掛金及び契約資産の減少226百万円である一方、主な支出要因は、契約負債の減少56百万円によるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は19百万円(前年同期は18百万円の資金の使用)となりました。支出要因は、有形固定資産の取得1百万円、無形固定資産の取得18百万円によるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は31百万円(前年同期は2,008百万円の資金の獲得)となりました。主な支出要因は、長期借入金の返済32百万円によるものであります。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年6月期の業績予想につきましては、2024年8月14日に公表いたしました「2024年6月期決算短信」に記載した内容から変更はございません。経営環境の動向を注視し、業績予想の修正が必要と判断した場合には速やかに開示いたします。

なお、2025年6月期第3四半期累計期間の業績予想につきましては、売上高、営業利益ともに堅調に推移する見込みとなっております。第2四半期において一部のプロジェクトに進捗の遅れがみられたものの、通期への影響は限定的であり、電力・エネルギー分野を中心に下期に売上が増加する見込みとなっております。これにより下期の営業利益率は上期の水準を上回り、通期の営業利益率が計画水準を満たす想定となっております。

なお、上記の業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

## 2. 中間財務諸表及び主な注記

## (1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年6月30日)	当中間会計期間 (2024年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,900,488	3,065,877
売掛金及び契約資産	786,175	559,761
その他	60,042	78,644
流動資産合計	3,746,706	3,704,284
固定資産		
有形固定資産	8,439	8,671
無形固定資産	126,151	122,033
投資その他の資産	220,221	194,684
固定資産合計	354,813	325,389
資産合計	4,101,519	4,029,673
<b>負債の部</b>		
流動負債		
1年内返済予定の長期借入金	65,810	38,810
賞与引当金	48,434	58,257
その他の引当金	—	2,018
その他	343,106	251,726
流動負債合計	457,350	350,812
固定負債		
長期借入金	5,820	—
固定負債合計	5,820	—
負債合計	463,170	350,812
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	52,103	53,000
資本剰余金	3,510,895	3,511,792
利益剰余金	74,012	112,988
自己株式	△179	△398
株主資本合計	3,636,832	3,677,382
新株予約権	1,516	1,479
純資産合計	3,638,348	3,678,861
負債純資産合計	4,101,519	4,029,673

## (2) 中間損益計算書

(単位:千円)

	前中間会計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)	当中間会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)
売上高	638,478	890,463
売上原価	201,243	280,086
売上総利益	437,235	610,377
販売費及び一般管理費	433,646	547,480
営業利益	3,588	62,897
営業外収益		
受取利息	254	544
物品売却益	553	225
業務受託手数料	531	97
その他	568	190
営業外収益合計	1,908	1,057
営業外費用		
支払利息	587	358
上場関連費用	21,667	—
補修費用	456	133
その他	—	89
営業外費用合計	22,711	581
経常利益又は経常損失(△)	△17,215	63,372
税引前中間純利益又は税引前中間純損失(△)	△17,215	63,372
法人税、住民税及び事業税	1,145	1,145
法人税等調整額	△3,765	23,252
法人税等合計	△2,620	24,397
中間純利益又は中間純損失(△)	△14,594	38,975

## (3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間会計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)	当中間会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益又は税引前中間純損失(△)	△17,215	63,372
減価償却費	20,588	23,843
敷金及び保証金償却額	594	594
賞与引当金の増減額(△は減少)	46,766	9,823
その他の引当金の増減額(△は減少)	182	2,018
受取利息及び受取配当金	△254	△544
支払利息	587	358
上場関連費用	21,667	—
売掛金及び契約資産の増減額(△は増加)	△48,948	226,413
棚卸資産の増減額(△は増加)	—	△13,447
前払費用の増減額(△は増加)	4,382	1,974
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,342	8,530
契約負債の増減額(△は減少)	4,697	△56,792
未払費用の増減額(△は減少)	△30,003	5,318
未払金の増減額(△は減少)	△13,504	△9,901
未払又は未収消費税等の増減額	△35,470	△24,200
その他	10,360	△18,335
小計	△36,912	219,027
利息及び配当金の受取額	6	296
利息の支払額	△591	△357
法人税等の支払額	△2,290	△2,335
営業活動によるキャッシュ・フロー	△39,787	216,629
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,096	△1,639
無形固定資産の取得による支出	△16,263	△18,318
投資活動によるキャッシュ・フロー	△18,359	△19,957
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△30,050	△32,820
株式の発行による収入	2,063,696	—
ストックオプションの行使による収入	—	1,756
自己株式の取得による支出	—	△219
上場関連費用の支出	△25,134	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,008,511	△31,283
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,950,363	165,389
現金及び現金同等物の期首残高	671,809	2,900,488
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,622,173	3,065,877



(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社は、AI開発事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。